

令和元年度 医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進事業

TOPセミナー 令和2年1月26日（日）開催

【取組事例3】

地域医療連携推進法人 江津メディカルネットワーク の取り組み

江津メディカルネットワーク

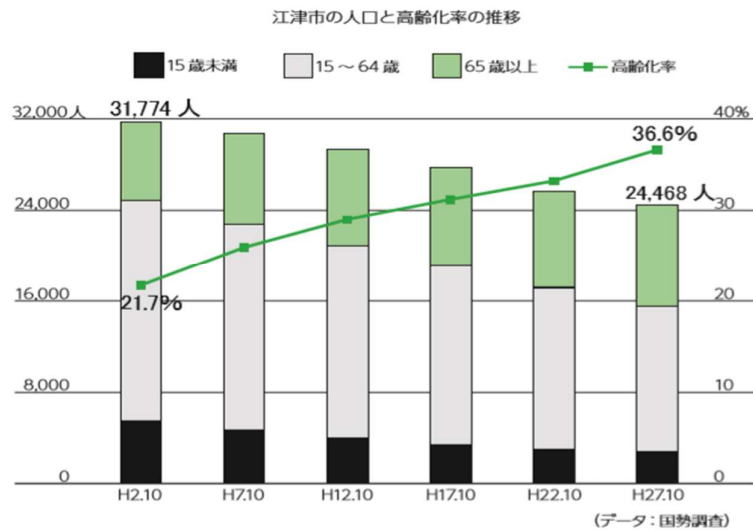
代表理事 中澤 芳夫（済生会江津総合病院 院長）

江津市の紹介

江津市は島根県の中央部よりやや西寄りに位置する、人口約24,000人（高齢化率37%）、総面積268.24平方キロメートルのまちです。県庁所在地の松江市から西へ約100キロ、中国地方最大の都市・広島市から北へ約110キロの距離にあります。



江津市の人口と高齢化率



- 65才以上の高齢者の人口は年々増加しており、平成2年国勢調査の時の人口は31,774人、高齢化率は21.7%でしたが、平成27年には、24,468人(7,306人の減)、高齢化率36.6%(14.9ポイントの増)となっています。
- 平均寿命が伸びていることによる65才以上人口の増加と、少子化による若年人口の増加により、高齢化が進んでいます。

-2-

島根県済生会について

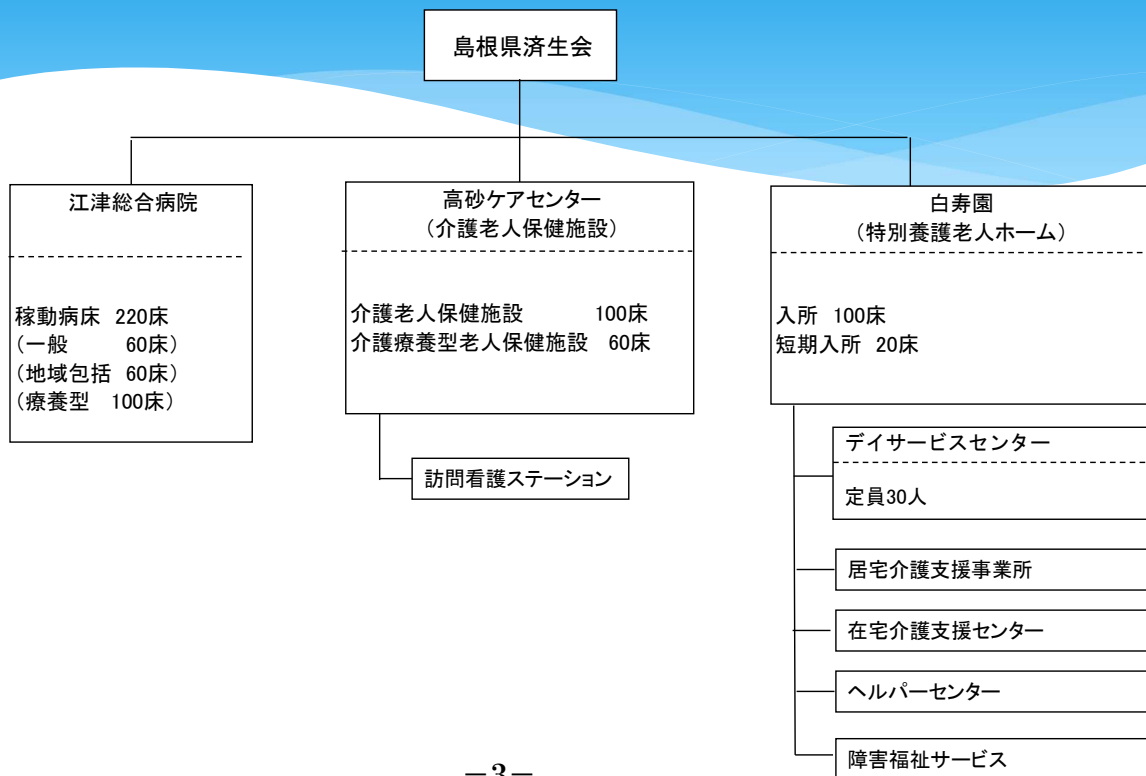
島根県済生会は島根県江津市にて医療(江津総合病院)・保健(高砂ケアセンター)・福祉(特別養護老人ホーム白寿園)の総合医療・保険・福祉事業サービスを行っています。

3つの施設がほぼ同一敷地にあるという有利な地理的条件を備え、地域包括ケアを目指す地域完結型の医療を実践できる環境を有しています。



-3-

島根県済生会の組織図



済生会江津総合病院の課題

◎慢性的な医師不足

医師が1人でも退職すると経営状況が大きく悪化する可能性があり、現在においても医師確保が経営のカギを握っている。

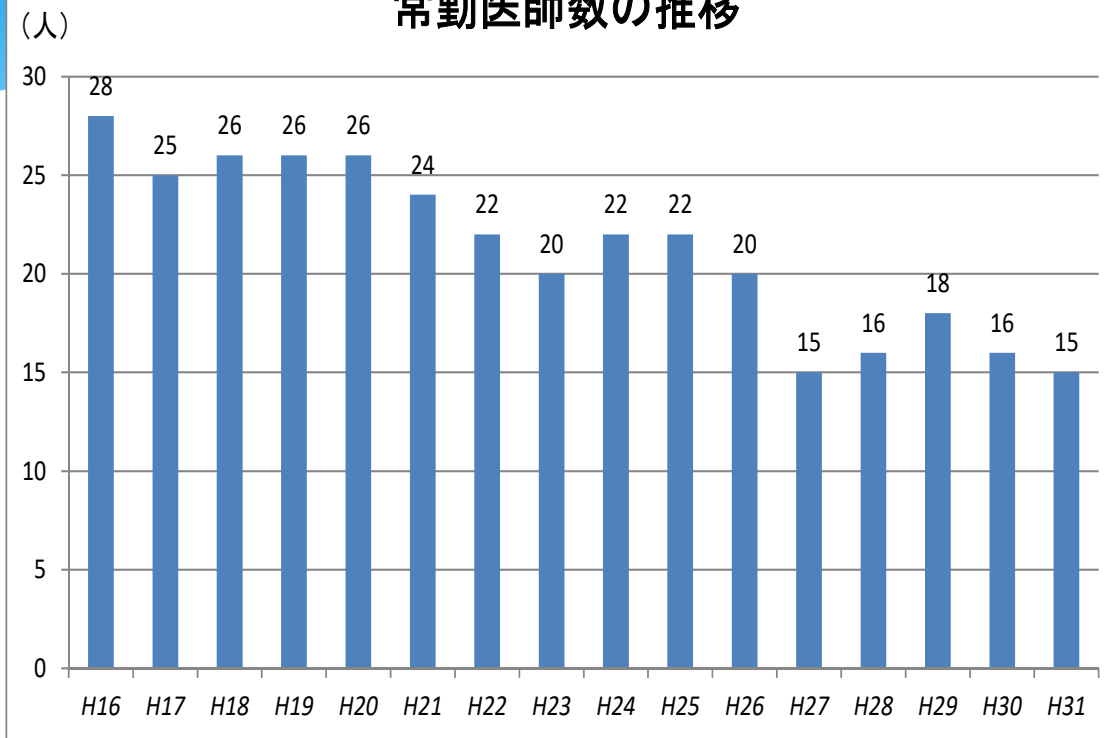
常勤医師数 (R1.7.1～現在)

診療科	常勤医師数	診療日
循環器科	4	毎日
消化器科	2	4/W
外科	2	毎日
整形外科	1	毎日
皮膚科	1	毎日
産婦人科	2	毎日
脳神経外科	1	毎日
療養病床	1	—
合計	14	—

} 内科として毎日診療

※消化器科医師のうち1名がリハビリテーション科(2/W)も担当

常勤医師数の推移



※人数は各年4月1日現在のもの

-6-

(参考)

救急患者の受け入れ強化

⇒少ない医師でも可能な限り断らない

○救急車要請に対する受入率

2018年度

要請件数	1,140
受入件数	1,038
受入率	91.1%



2019年度(4月～10月)

要請件数	628
受入件数	584
受入率	93.0%

-7-

江津市医師会の課題

◎開業医の高齢化(後継者不足)

・医師数 20名
(診療所・病院数 16)

・平均年齢 63.7才

・課題

⇒ご子息が医師になっている
会員は多いものの、地元
戻って医院を承継するケース
が少ない

(参考)開業医の年齢分布

83才	●	(1名)
82才	●	(1名)
81才		
80才		
79才	●	(1名)
78才		
77才	●	(1名)
76才		
75才	●	(1名)
74才	●	(1名)
73才		
72才		
71才	●	(1名)
70才	●	(1名)
69才	● ●	(2名)
68才	●	(1名)
67才		
66才		
65才		
64才		
63才		
62才	●	(1名)
61才		
60才	●	(1名)
59才		
58才		
57才		
56才		
55才	●	(1名)
54才		
53才		
52才	●	(1名)
51才	● ●	(2名)
50才		
49才		
48才		
47才		
46才		
45才	●	(1名)
44才		
43才	●	(1名)
42才		
41才		
40才		
39才		
38才	●	(1名)
合計		(20名)

-8-

1 法人設立の経緯(背景)

○済生会江津総合病院の状況

- * 医師の減少に伴う経営悪化を受け平成22年に経営指導施設に指定され、経営改善が至上命令。
- * 平成30年度から病床規模のダウンサイジングと機能転換を実施し、収支状況は大きく改善。
- * しかしながら、医師が1人でも退職すると経営状況が大きく悪化し、医療の継続が立ち行かなくなるリスクが常に存在。

○江津市医師会の状況

- * 開業医師の高齢化、後継者不足が喫緊の課題。



何もしなければ、地域医療が崩壊することへの危機感

-9-

- ① 連携推進法人制度の理解
(2017年にスタート 先進事例も少ない)
- ② 江津市医師会・済生会としての合意形成
- ③ 認定手続

-10-

①制度の理解

江津市医師会主催による医師会員を対象とした
「地域医療連携推進法人制度研修会」を開催

講師：島根大学名誉教授・特任教授(前島根大学長)

小林 祥泰 先生

(平成30年6月25日)

-11-

①制度の理解

「江津区域地域医療連携推進法人在り方検討会」を設置

- 目的** :法人の在り方についての課題の整理とその対応を検討し、院長及び医師会長に報告する。
- 構成員** :医師会と済生会各々から3名を選出
- 検討内容**:法人制度のメリット・デメリット、認定基準等の共通認識、設立した場合の医療連携推進方針(案)、事業計画(案)、定款(案)等
- 報告書** :4回検討会を開催し、江津市医師会長並びに済生会江津総合病院長に対して、10月4日付けで報告。
＜医療連携推進方針(案)を踏まえ、地域医療連携推進法人の設立を進めるよう進言＞

- 12 -

①制度の理解

「一般社団法人江津メディカルネットワーク設立準備委員会」を設置

(地域医療連携推進法人になるためには、一般社団法人の設立が必要)

- 目的** :設立を円滑に進めるために必要な定款等の検討
- 構成員** :医師会と済生会各々から3名を選出
- 開催回数**:3回
- 検討内容**:「一般社団法人江津メディカルネットワーク」設立時の役員体制、定款(案)、「地域医療連携推進法人江津メディカルネットワーク」会費等規則(案)医療連携推進方針(案)、事業計画(案)、予算(案)等

- 13 -

②法人内での合意形成

◆江津市医師会

- 地域医療連携推進法人制度研修会 6月25日(再掲)
- 毎月開催する理事会において検討状況の把握
- 江津市医師会臨時社員総会

開催日:平成30年11月8日

検討結果:「江津区域における地域医療連携推進法人のあり方について」(平成30年10月4日付け)の検討結果の報告書を受け、臨時社員総会を開催し、法人への参加について諮り、承認。

-14-

②法人内での合意形成

◆済生会

- 平成30年1月15日
済生会江津総合病院として、「地域医療連携推進法人」設立に向け取り組むことを方針決定
- 平成30年10月4日
「江津区域における地域医療連携推進法人のあり方について」の検討結果を受理
- 平成30年11月27日
済生会島根県支部理事会として、「江津区域地域医療連携推進法人への参加」について承認

-15-

②法人内での合意形成

◆ 済生会

■ 平成31年3月28日

済生会本部評議会において、「済生会江津総合病院の地域医療連携推進法人の参加」について承認

- 16 -

③認定手続

■ 平成31年3月29日

島根県知事あて地域医療連携推進法人認定申請書提出。

■ 平成31年4月10日

一般社団法人江津メディカルネットワーク登記完了。

■ 令和元年5月30日

島根県医療審議会医療法人部会が開催され、「地域医療連携推進法人江津メディカルネットワークの認定」について「差し支えない」旨の答申。

- 17 -

③認定手続

■令和元年6月10日

「地域医療連携推進法人江津メディカルネットワーク認定式」が知事室で行われ、島根県知事より、6月1日付けの通知書が交付されました。

出席者 島根県知事 丸山 達也

地域医療連携推進法人江津メディカルネットワーク

代表理事 中澤 芳夫 (済生会江津総合病院 院長)

理 事 能美 一政 (江津市医師会 会長)

” 花田 有二 (江津市医師会 副会長)

-18-

2 目的

済生会江津総合病院と地元医師会が協力し、お互いの人的資源をフル活用し、地域住民に対して継続的に医療、介護、福祉サービスを提供する

- 済生会江津総合病院と江津市医師会の連携強化
- 開業医の後継者の早期帰郷を図ることによる医師確保



江津市内の 医療提供体制の維持

-19-

3 連携法人の構成

地域医療連携推進法人江津メディカルネットワーク

社会福祉法人
恩賜財団済生会

一般社団法人
江津市医師会

医療法人社団
能美医院

-20-

4 メリット・デメリット

■メリット

- ⇒開業医の後継者が当院でも勤務できるようにすることにより、後継者の早期帰郷を促進
(開業医は当院の医療機器を使用でき、診療所運営の負担も軽減)
- ⇒当院においては、医師不足を補うことができ、診療体制の確保が可能
- ⇒法人設立が全国で11番目、島根県内で初めてであり、地元開業医のご子息を呼び込むツールとして、全国への発信力が高いこと

■デメリット

- ⇒新たな事業実施に伴う事務量の増加

-21-

5 連携事項

(1) 医師等の相互交流システムの構築

参加法人間でクロスアポイントメントシステムを基本とした医師の交流



後継者の早期帰郷、又は新たな医師確保を図る

その他職員(看護師、診療放射線技師、理学療法士、言語聴覚師等)についても、状況によって済生会江津総合病院から診療所等へ派遣

5 連携事項

(2) 共同研修の実施

医療従事者を対象とした研修会を実施し、スキルの向上を図る

(3) 医療機器の共同利用

済生会江津総合病院の医療機器を共同利用した検査システムの推進を図る

(4) 病床の開放

済生会江津総合病院の病床を一部開放し、参加法人の医師が共同で患者の治療を行えるよう事業を推進する

5 連携事項

(5) 在宅医療の分担・業務連携

済生会江津総合病院の地域医療連携室を中心として、診療所、老人保健施設、訪問看護ST等と連携し、在宅医療への橋渡しの役割を推進

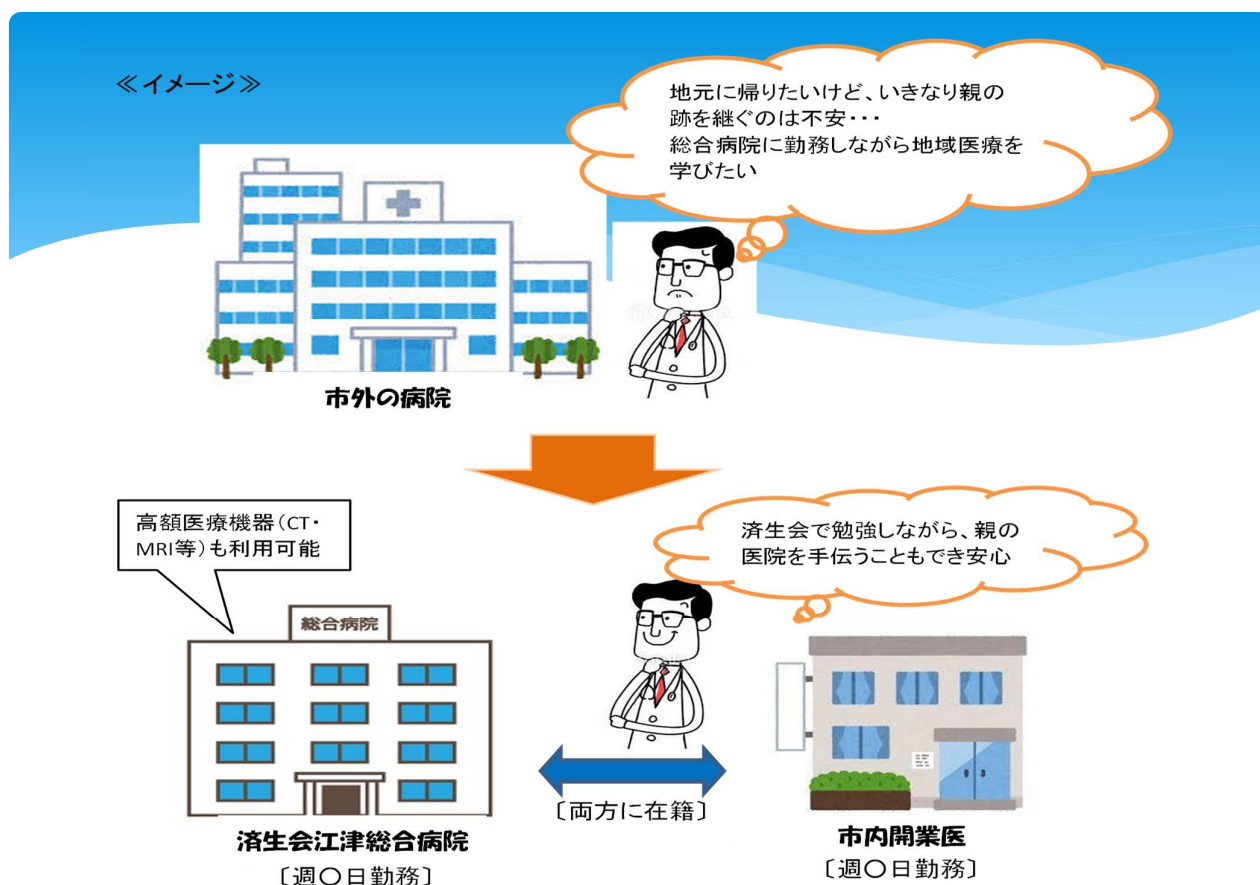
(6) 入院患者の在宅医療生活への円滑な移行の推進

病院の入退院時の相談業務を通じて全ての入院患者の在宅医療生活への円滑な移行を推進

(7) 要介護者急変時への対応

在宅や施設での要介護者の急変時対応として連携の強化を図る

-24-



-25-

6 現時点での取組内容

(1) 医薬品・医療材料の共同交渉

仕入れ先の統一、品目の集約などスケールメリットを活かすため交渉を実施中

(2) 開業医が済生会江津総合病院で実施する診療・検査について積極的に関与

開業医と済生会江津総合病院の雇用契約についてより連携が図れるよう順次契約内容を変更中

6 現時点での取組内容

(3) 江津市内の在宅医療体制の構築

市内での在宅医療提供体制を維持・向上することを目的に江津市医師会より「医療連携推進コーディネーター事業」を済生会江津総合病院が受託。

開業医への訪問、情報提供、会員同士の意見交換会等活動を実施中。

(新たに訪問診療を開始する意向の先生が現れる等、少しずつ効果が表れている)

6 現時点での取組内容

(4) 講演会開催

- ①令和元年6月24日(月) 第1回講演会(設立記念講演会)
 - ・設立の経緯説明:竹林理事
 - ・講演:元厚生労働省医政局 医療法人指導官 染谷 輝氏
 - ・パネルディスカッション:
染谷元医療法人指導官、中澤代表理事、
能美理事、済生会小林顧問、島根県医師会森本会長
⇒住民や医療関係者約130人が聴講

- ②令和2年2月11日(火・祝) 第2回講演会
 - ・テーマ『認知症患者の終活に向けた意思決定支援について』
 - ・講演:うめがえ内科クリニック 院長 梅枝 伸行氏
 - ・パネルディスカッション:
訪問診療医師、ケアマネ、介護経験者など

-28-

6 現時点での取組内容

(5) 江津市内診療所への医師派遣

- ・江津市国民健康保険診療所の担当医が高齢(82才)
のため診療所での診察が困難となった

- ⇒ 令和元年5月～
診療所の事業について済生会江津総合病院が
市から受託し、新たに医師を派遣
(現在、計4名の医師を交互に派遣(1/W))

-29-



ご清聴ありがとうございました。